

平成20年度 地方の元気再生事業 事業実施調査

(1) 取組名	「スローフード運動による食農と工芸と環境融合型の町づくり推進」事業		
(2) 実施団体名	食農と工芸と環境融合型の町づくり推進協議会	(3) 対象地域	宮崎県綾町
(4) 代表団体名	有限会社 綾わくわくファーム	(5) 推薦団体名	宮崎県綾町

(6)実施した取組の内容	<b>取組①</b>	食農文化(スローフード)に関する教育、食農に関するイベント		
	実施主体	(有)綾わくわくファーム		
	内容のねらい	スローフードの理念を取り入れて、住民の「真の豊かさを求めて」—より良い世の中を作っているより良い人生を歩むようになるという—減私奉公的な理想の町民像を模索し、本町特有の地域活動主体のまちづくりの基礎を築く。		
	実施内容、実施結果	当初提案により予定していた計画	実際の取組内容及びその結果	
		スローフードジャパンの副会長濱田倫紀氏のネットワークを活用した 【内容A】綾わくわくファームの「テストキッチン」を活用した食育講座(16回)、有機農法講習会(4回) 【時期】平成20年9月～平成21年2月 【場所】綾わくわくファーム	【内容A】綾わくわくファームの「テストキッチン」を活用した食育講座(16回)、有機農法講習会(4回) 【時期】平成20年9月～平成21年2月 【場所】綾わくわくファーム 【結果】町内外の“食育”や“食の安心・安全”“産地地消”などに興味のある人々が参加。町内外の多くの人々に“スローフード”の理念が浸透し、自地域の素晴らしさの再発見、綾町のPRに繋がった。 「有機農法講習会」は、地域住民における有機農法理解・実践者の増加、町外住民については、綾町の有機農法に対する深い理解などPR効果が期待できる。	
		【内容B】未来の巨匠(シェフ)養成講座プロジェクト(16回) 【時期】平成20年9月～平成21年2月 【場所】綾わくわくファーム	【内容B】未来の巨匠(シェフ)養成講座プロジェクト(13回) 【時期】平成20年9月～平成21年2月 【場所】綾わくわくファーム 【結果】将来の食事業を担う子どもたちに綾町の農業、有機野菜について理解を深めることができ、中学生から熟年層まで、幅広い年齢層に“産地地消”や“スローフード”の理念と魅力が伝わり、近い将来、綾町の食文化の開発を担っていく人材の発掘及び育成を行うことができた。	
		【内容C】スローフード祭りの開催(田園地帯を徒歩で巡回～1回) 【時期】平成21年3月末 【場所】綾町内(馬事公苑周辺)	【内容C】スローフード祭りイベントの開催 【時期】平成21年3月上旬 【場所】綾町内(馬事公苑周辺) 【結果】昨年度の参加者アンケートの結果では、「また参加したい」「参加したい」との意見が多く、好評であり、町内外に綾町のイメージを伝えるイベントとして期待できることから、本取組の成果を生かし実施する。	
		【内容D】農用地帯(田畑・果樹園等)の景観整備(見せる農村風景) 【時期】平成20年10月・平成21年3月 【場所】綾町内	【内容D】農用地帯(田畑・果樹園等)の景観整備(見せる農村風景) 【時期】平成20年10月(彼岸花)・平成21年3月(花桃) 【場所】綾町内 【結果】集落、田畑・果樹園等の道沿いなどに彼岸花、花桃を植栽しており、スローフード祭りなどに向け景観整備に努めた。	
	<b>取組②</b>	公共施設のサービス向上、収益改善と滞在型サービスの促進		
	実施主体	綾町産業活性化協会・アイデアパートナーズ(株)		
内容のねらい	ファクトリーツーリズム(町内43ヶ所の工房を活用したルート策定)、食農体験プログラムの作成、及び集客や経営に厳しい公共施設(宿泊施設「綾川荘」、綾の国際クラフトの城(体験館))のサービス向上、収益改善を行い、【長期滞在型集客・交流の受入れ整備】を行う。			
実施内容、実施結果	当初提案により予定していた計画	実際の取組内容及びその結果		
	【内容A】綾町産業活性化協会(町営)で運営し、経営・サービス評価が厳しい公共施設(宿泊施設「綾川荘」、綾・国際クラフトの城(体験館))の、営業・売り上げ状況分析、商品(料理、部屋、料金)構成分析、サービスレベル分析、顧客評価の実施を行う。 【時期】平成20年10月～12月 【場所】綾川荘、綾・国際クラフトの城	【内容A】綾町産業活性化協会(町営)で運営し、経営・サービス評価が厳しい公共施設(宿泊施設「綾川荘」、「綾町サイクリングターミナル」)の、営業・売り上げ状況分析、商品(料理、部屋、料金)構成分析、サービスレベル分析、顧客評価の実施を行う。 【時期】平成20年10月～12月 【場所】綾川荘、綾町サイクリングターミナル 【結果】公共の宿泊施設の経営改善を最優先し、「綾・国際クラフトの城」に替え「綾町サイクリングターミナル」と「綾川荘」の2施設について実施。10月～12月は現地にて経営状態や提供サービス(料理、部屋、料金、アメニティ等)の調査・分析、また、顧客評価の分析を行った。スタッフ一人一人が経営の現状を把握することにより、宿泊客に対するホスピタリティの向上、長期滞在客受け入れへの意識付けを行うことができた。		
	【内容B】具体的な収益改善、サービス向上の方策を行い、滞在型サービスの商品化を行い、滞在者を受け入れていく。 【時期】平成21年1月～3月 【場所】綾川荘、綾・国際クラフトの城	【内容B】具体的な収益改善、サービス向上の方策を行い、滞在型サービスの商品化を行い、滞在者を受け入れていく。 【時期】平成21年1月～3月 【場所】綾川荘、綾町サイクリングターミナル 【結果】上記の2施設について、内容Aの分析結果から収益改善、サービス向上の方策を策定し1月21日に報告会を実施。2月以降は策定した方策に基づき、接客サービスの改善指導によるホスピタリティの向上、商品・プランづくりの指導による企画力の強化、HPIによるPRの改善方法等の研修による情報発信手法の改善を行い、取組③のモニターツアーと別途企画するモニターツアー(2/23～24)を実施する。提供サービスや接客については改善できるところから実施しており、サービス向上へや集客増による経営改善に向けたスタッフの気運も高まっている。		
<b>取組③</b>	食農と工芸と環境の融合による長期滞在型集客・交流の振興			
実施主体	綾町観光協会・(有)綾わくわくファーム・アイデアパートナーズ(株)			

(6)実施した取組の内容	内容のねらい	“スローフード、スローライフ、ロハス、有機農業、エコ・自然”といった綾町を象徴するキーワードに興味がある人々をターゲットに特定することによって、地域住民と来訪者がお互い刺激を受けながら学び合える場、より深い交流の場を創出し、来訪者の長期にわたる滞在、何度でも来てもらえる環境をつくり、【長期滞在型集客・交流】による経済的な効果を生み出していく。	
	実施内容、実施結果	<p>当初提案により予定していた計画</p> <p>【内容A】ファクトリーツーリズムの推進(町内43カ所一工芸作家のアトリエや展示会場の見学コースの策定、マップ作成、ガイドの養成)。滞在中の体験プログラムの充実を図る。 【時期】平成20年9月～平成21年3月 【場所】綾町内</p> <p>【内容B】民泊受入れのためのアンケート調査を行い、受入れ民家を発掘する。 【時期】平成21年2月 【場所】綾町全域の農家</p> <p>【内容C】自然と人がふれあう場所調査とルートマップを作成(エコトレッキング等)し、滞在中の体験プログラムの充実を図る。 【時期】平成20年9月～平成21年3月 【場所】綾町内(照葉樹林エリア)</p> <p>【内容D】食農と工芸と環境の融合による長期滞在型集客・交流ツアーの実施(農家、工芸家、宿泊所等～説明会4回・ツアー2回)の拡大・啓発。 【時期】平成20年10月～平成21年3月 【場所】綾町内全域</p>	<p>実際の取組内容及びその結果</p> <p>【内容A】工房巡りや体験農園紹介を含めた“町あるき”コースの策定、“町あるき”ガイドマップの制作、ガイドの養成を行い、体験プログラムの充実を図る。 【時期】平成20年9月～平成21年3月 【場所】綾町中心部・馬事公苑周辺 【結果】“ファクトリーツーリズム”の概念をそのままに、さらにこの要素を拡大して、来訪者が工房巡りや体験農園など、町内の名所・風景も楽しみながら周遊することができるコースについて、綾町中心部・馬事公苑周辺の2エリアで策定。綾町の地域活性化やガイドすることに興味がある15名をメンバーとしワークショップ4回を開催。“町あるき”によるフィールドワークを行いながら、コース策定とガイドのポイントの学習を行った。策定したコースを2エリア別々のガイドマップに制作し、専門的な“町あるきガイド”を発掘し、育成していく第1ステップとす。</p> <p>【内容B】民泊受入れのためのアンケート調査を行い、受入れ民家を発掘する。 【時期】平成21年2月 【場所】綾町全域の農家 【結果】2月に町内50～60軒の農家に対して実施予定(回収率80%を想定)。民泊の推進に賛同する農家が来年度以降に参画いただくことで、取組の幅の拡大や拡充を行うことができる。</p> <p>【内容C】自然と人がふれあう場所調査とルートマップを作成(エコトレッキング等)し、滞在中の体験プログラムの充実を図る。 【時期】平成20年9月～平成21年3月 【場所】綾町内照葉樹林エリア 【結果】照葉樹林ウォーキングのガイド等の実績がある「てるはの森の会」メンバーを中心にワークショップとフィールドワークを実施(1月末時点で1回実施、4回は2月～3月で実施予定)。新たなルートの発掘、既存ルートの見直しにより、コースの充実化や森林ガイドやエコトレッキングガイドとしての知識・スキルの上昇が行われた。</p> <p>【内容D】食農と工芸と環境の融合による長期滞在型集客・交流ツアーの実施(農家、工芸家、宿泊所等～ツアー3回)の拡大・啓発。 【時期】平成20年10月～平成21年3月 【場所】綾町内全域 【結果】実践の場やPRの機会を多く設けるため、説明会4回・ツアー2回をツアー3回の実施(11月・2月・3月)に組み替えて実施。の11月24日～26日実施のモニターツアーは、参加者9組13人。アンケート結果は「とても良かった」「良かった」91%と、概ね高い評価を得た。また、その参加者の中から1名の定住希望者を輩出し、大きな成果を上げることができた。2月(2/26～3/1/3泊4日)・3月(3/12～3/14/2泊3日)の2回のモニターツアー(目標参加人数20人+20人)についても、取組①②と融合させた今年度の成果を活用し実施する。</p>
(7)実施体制		<p>平成20年度の取組実施における体制・役割分担</p> <p>■食農工芸と環境融合型の町づくり推進協議会 下記4団体で構成され、それぞれの役割を分担。協議会全体の連絡調整を綾町産業観光課が連携して行う。 ○(有)綾わくわくファーム(主担当:取組①②):協議会代表団体。“スローフード”“有機農法”関連事業の取りまとめ、モニターツアーの企画主体、地域におけるコーディネート等を担当。 ○綾町観光協会(主担当:取組③):モニターツアーの地域におけるコーディネート、取組③における全般的なアドバイス及びサポート、近隣エリアへの広報等を担当。 ○綾町産業活性化協会(主担当:取組②):公共施設に関連する事業、関係者間の調整等を担当。 ○イデアパートナーズ(株)(主担当:②③):公共施設関連事業の遂行(経営分析・顧客評価分析・経営改善案の策定・人材育成等)、モニターツアー企画の遂行のサポート、広報・PRプランの構築、事業全体のアドバイス及びサポート等を担当。</p>	<p>取組の実施を踏まえた反省点</p> <p>【取組①】各種講座における講師の選定や講座内容などは、代表・濱田倫紀氏のネームバリューとネットワークのもと、優れた講師陣を誘致でき、また、その優れた講師陣によって多くの参加者を得ることができた。 【取組②】宿泊施設再生に実績があるイデアパートナーズ(株)が協議会の構成員に加わっていたことにより、綾町産業活性化委員会との連携で来年度以降の経営改善に向けての具体的な計画が構築できた。 【取組③】工芸家、照葉樹林関係者、農家、素材にこだわりのある飲食店及び公共施設等の連携によるモニターツアーは、参加者に好評を博し計画通りに進んだ。モニターツアーの目玉である“農業体験”については、町内の農園・家庭菜園オーナーの本取組に対する理解と協力により、参加者の日頃の“農作業”に対するレベル(興味別、技術度別)に応じたプログラム(①本格派コース/②ちょっと体験コース)を設定することができ、参加者に好評だった。</p>
(8)取組により得られた成果	○成果1→	<p>【食農文化に関する教育の場確立～住民の「真の豊かさ」を求めて】意識醸成】通年での各種食育実習、未来の巨匠(シエフ)養成講座、有機農法普及開発講座の開催と年1回綾スローフード祭りの開催</p> <p>H19</p> <p>H20(当初予定していた目標)</p> <p>スローフード祭りの開催(第1回試行済み) 各種食育実習16回開催・未来の巨匠(シエフ)養成講座16回開催・有機農法普及開発講座4回開催・スローフード祭り1回</p> <p>H20(実際に得られた成果)</p> <p>①食育講座は全16回実施。実施済みの12回までは、定員総数176名を大きく上回る193名が参加。 ②未来の巨匠(シエフ)養成講座は講義時間延長や内容の拡充を図り13回開催。前半3回の大人対象講座では、濱田倫紀氏のネットワークでNHK「きょうの料理」でお馴染みの人気料理研究家・川上文代氏を講師として招致し、町内外の36名が参加。続く6回は、宮崎調理製菓専門学校講師・井久保美穂氏を講師に迎え、飲食店経営者の子弟だったり、料理に興味がある中学生を中心に延べ55人が参加。2月～3月に行う4回は、町内公共施設(「綾川荘」「綾町サイクリングターミナル等」)の料理人(約20名)を対象とした“綾産有機野菜”を素材としたスローフードメニューのレシピ講習等を行う。 ③有機農法普及開発講座(有機農法講習会)は農業開発センターの指導員やNPO法人の人々を講師に迎え、受講者目標を延べ50名と定め、2月に4回実施予定。集客目標を延べ50名と定め、参加者に綾町の食農文化の理解や知識を深める。 ④「スローフード祭り」では、スローフードメニューの試作会・試食会を行い「スロフード祭り」で来訪者に提供するスローフードメニューを選定するプレイベントを行う。取組①に参加の講習生(特に町内公共施設の料理人)にも広く参加を呼びかけて実施する。</p>	

(8)取組により得られた成果	<p>○成果2→ <b>【食農と工芸と環境の融合による長期滞在型集客・交流しかけづくり】</b>ファクトリーツーリズム(町内43ヶ所の工房を活用したルート策定)、食農体験プログラム作成、公共集客施設の有効活用を行い、長期(4泊5日以上)滞在交流者の受入れを行う。3年間、長期(4泊5日以上)滞在交流者 延べ300人泊、定住者受け入れ 延べ20人、民間活用による公共交流施設の黒字経営化2施設。民泊受入れ数10件。</p>	<p>H19 H20(当初予定していた目標)</p>
	<p>「おとなの長旅・九州」事業にて6泊7日10人、3泊4日2人 H20(実際に得られた成果)</p>	<p>長期(4泊5日以上)滞在交流者延べ300人泊、定住者受け入れ延べ10人。</p> <p>①ファクトリーツーリズムの「まち歩きマップ、コース策定とガイド育成」では、2エリアで実現し、住民から“まち歩きガイド”も発掘され育成できた。＜エコトレッキングガイド養成＞では、照葉樹林ウォークガイドの発掘・育成を“てるはの森の会”メンバー中心に行うことができた。 ②公共施設「綾川荘」と「サイクリングターミナル」の料理メニュー、宿泊プラン開発、サービスの改善により、インターネットによる予約増と、利用者の声としては「大変良い」「良い」との評価を得ており、滞在型の宿泊拠点への道筋が見えてきた。 ③10月～12月末の町内公共宿泊施設「綾川荘」「綾町サイクリングターミナル」における4泊5日以上長期滞在者数が延べ約140人泊(2泊3日の短期滞在者数は延べ46人泊)。町内農園や宿泊施設での受入数(3月末には判明)を含めた年間の町内全体の長期(4泊5日以上)滞在者は延べ300人泊を超える見込み。 ④定住者数は、12月末時点で転入者7名、定住希望者3名を確保。なお、定住希望者の1名は、11月の本事業におけるモニターツアー参加者。</p>
(9)今年度の取組成果や活動を踏まえた反省点、改善点	<p>①食育講座・シェフ養成講座・有機農法講習会の実施で、綾町の食農文化の啓蒙・啓発活動やその推進に興味を持つ人材の発掘は行うことができた。しかし、まだ住民への幅広い啓発や専門的な食育体験プログラム等の指導者、綾町の食農文化の伝道師としての育成にまでは至っていない。町への来訪者や住民への幅広い周知や啓発のための「スローフード祭り」の充実や、体験プログラムの指導者育成のための段階を踏まえた教育カリキュラムの構築と導入が必要である。 ②公共施設のサービス向上、収益改善と滞在型サービスについては、売り上げや集客人数の目標を掲げ、宿泊数を増やす経営改善計画を実践に移す。顧客満足度を上げて、リピーターに繋がるように、アンケートなどで顧客満足度を測定していく。また、スタッフの接客サービスや意識向上については、継続的(定期的)な研修機会等を設ける必要がある。 ③ファクトリーツーリズムの推進「まち歩きマップ、コース策定とガイド育成」は、既に着手した2地区のガイドの更なる育成、他の2エリアでのまち歩きマップ、コース策定とガイド育成を行う必要がある。 ④「滞在型集客・交流ツアーの実施」については、今年度は4泊5日以上長期滞在者受入れを目指して実施してきたが、綾町では日帰り型の観光が大勢を占めており、宿泊に結びついていないのが実態である。その状況を鑑みて、まずは日帰りを1泊の宿泊型へ移行するための集客・交流の滞在プランの開発も必要である。そのため、体験プログラムの充実、受け入れ農家や工芸家の発掘・インストラクターとしての育成、農家民泊の推進を図る。それと並行して、4泊5日以上長期滞在者受入れ、定住者受入れを推進していくことが必要である。 ⑤これらを推進していくために、(有)綾わくわくファーム以外の各種団体や組織など、幅広い関係者が連携する協議会を立ち上げ、お客さんの受け入れやPR企画等をシステムティックに遂行できる組織づくりが必要である。</p>	
(10)平成21年度以降の活動の見込み	<p>当初提案に予定していた平成21年度以降の展開 今年度の取組状況を踏まえた平成21年度以降の活動の見込みと活用を希望する支援制度</p> <p>【平成21年4月～22年3月】</p> <p>平成21年度の取り組み内容(予定) ○本格導入に向けた具体的検討事項 ・人口流出や高齢化が進む山間部の地域を対象に定住希望者を視野にいたれた地域の食文化や古民家を活用した都市住民との交流によるサポーターの確保。 ・“スローフード、スローライフ、ロハス、有機農業、エコ・自然”を生かしたロングステイ/ニ地域居住、定住を目指した長期滞在型集客・交流ツアーの実施や商品化の検討 ・定住に向けたワンストップ窓口の方策検討・整備</p> <p>○本格導入に向けた関係機関調整 ・本格導入に向け事業を円滑に進めるため、行政やJA、商工会、地域自治公民館や関係者と連携して公民協働を進める。</p> <p>【平成22年～平成24年】</p> <p>○本格的な事業展開 ・実施地域 綾町全域 ・実施期間 平成22年～平成24年 ・実施内容 “スローフード、スローライフ、ロハス、有機農業、エコ・自然”を生かした長期滞在型プログラムの商品化と受入れ拡大。ワンストップ窓口の整備による定住者受け入れ増加。</p> <p>1. 食文化や民泊、古民家を活用した都市住民との交流事業(平成21年度) 【実施主体】綾町・綾町観光協会 【取組内容】今年度の取組③の民泊受入れ調査にて民泊実践に手を挙げた人々、すでに民泊を実践している人々を中心として、民泊実践の講習会、交流滞在型プログラムの構築とモニターツアーを行う。UIターン希望者をターゲットとした定住促進のためのファンづくりを行う。 【活用を希望する制度】上記について地方の元気再生事業の継続支援を希望(想定金額:250万円)</p> <p>2. “スローフード・スローライフ・有機農業”をキーワードとした滞在型集客・交流の商品開発、ツアー実施(H21年～22年度) 【実施主体】食農と工芸と環境融合型の町づくり推進協議会と綾町産業観光課の連携による 【実施内容】 ①食育講座・シェフ養成講座・有機農法講習会の実施⇒町への来訪者や住民への幅広い周知や啓発のための「スローフード祭り」の充実◇春、秋・体験プログラムの指導者育成のための、段階教育カリキュラム講座開催。 ②公共施設のサービス向上、収益改善と滞在型サービスの実施⇒前年比売上げ増、集客人数増の目標設定と実施。顧客満足度向上の測定と数値化◇スタッフの接客サービスや意識向上のための研修実施。 ③まち歩きツーリズムの推進⇒既に着手した2地区では、ガイドの育成講座開催、新たに2エリアでのまち歩きマップ、コース策定とガイド育成講座◇森林ガイド講習会の実施。 ④滞在型集客・交流の商品開発、ツアーの実施⇒上記の①食育講座、スローフード祭り③まち歩きツーリズムに加え、農家や工芸家の発掘・インストラクターとしての育成による体験プログラムの充実を図る◇秋～冬にかけて、これらをまとめて情報発信できる「綾スローライフ巡り」(まちの中を回遊、滞在できる25体験プログラム)を開催する◇上記②を活用した1泊、2泊から4泊以上の様々な集客・交流のツアーの実施◇具体的な宿泊延べ人数増を目標に実施していく。 【活用を希望する制度】上記について地方の元気再生事業の継続支援を希望(想定金額:1,450万円) ・食育講座・シェフ養成講座・有機農法講習会の実施 330万円 ・公共施設のサービス向上、収益改善と滞在型サービスの実施 300万円 ・まち歩きツーリズムの推進 220万円 ・滞在型集客・交流の商品開発、ツアーの実施 600万円</p> <p>3. 滞在型観光及び定住促進事業を担う「綾スローライフツーリズム協会(仮)」設立計画の策定(平成22年度) 【実施主体】食農と工芸と環境融合型の町づくり推進協議会と綾町産業観光課の連携による 【実施内容】長期滞在者、UIターン希望者へのワンストップ機能、PR機能を持たせた「綾スローライフツーリズム協会(仮)」設立に向けて、JA、地域自治公民館など町内の各種団体、観光協会、商工会等関係各所へのヒアリング調査を実施し、その結果をふまえて、組織体制の構築及び運営計画の策定を行う。</p>	

## ◆主な実施取組の内容◆

### 取組①: 食文化に関する教育、食農に関するイベント

実施主体:(有)綾わくわくファーム

取組内容・結果:

- ①綾わくわくファームの「テストキッチン」を活用した食育講座  
→全16回で実施。1月末時点で12講座が終了。定員総数176名に対し、延べ193名が参加。
- ②綾わくわくファームの「テストキッチン」を活用した「シェフ養成講座」  
→13回実施。前半3回は、NHK「きょうの料理」でお馴染みの人気料理研究家・川上文代氏を講師に迎えて大人の参加を対象とし、後半6回は宮崎調理製菓専門学校講師・井久保美穂氏を講師に迎え、域内中学生を対象に実施。9回で延べ91名が参加。残り4回は、綾町内の公共宿泊施設の料理人を参加対象に実施。

①②の実施により、綾町がスローフードや有機農法を推進する理念、意義等が地域内外の人々に十分に伝わる。「有機農法講習会」「スローフード祭り」「農用地帯の景観整備」は、2月～3月にかけて実施。

#### 【食育講座実施スケジュール】

回	日付	講座名
1	9月23日	ソーセージ体験①
2	10月12日	著作し&著の話
3	10月19日	そば打ち体験
4	11月2日	手打ちうどん
5	11月7日	薬膳料理
6	11月29日	チーズと野菜のマリアージュ
7	11月30日	イタリア料理教室
8	12月7日	パン教室
9	12月13日	マクロビオティック料理教室
10	12月20日	柚子を楽しむ
11	1月17日	パン教室
12	1月24日	ソーセージ体験②
13	2月1日	パン教室
14	2月28日	薬膳料理
15	2月21日	ソーセージ体験③
16	実施日未定	ソーセージ体験④



▲第5回食育講座



▲第6回シェフ養成講座

### 取組②: 公共施設のサービス向上、収益改善と滞在型サービスの促進

実施主体:綾町産業活性化協会、アイデアパートナーズ(株)

取組内容・結果:

- 「綾川荘」及び「サイクリングターミナル」の経営分析、顧客評価の分析、経営改善案の提案、滞在型サービスの商品づくり  
→10月～12月は、現地調査、経営状態や顧客評価の分析を行い、具体的な経営改善策(料理・部屋・料金等)を構築。1～2月はサービス向上を目的としたスタッフ研修、滞在型商品づくりの勉強会などを実施。いずれも取りかかれる部分から改善が進行中。



▲現状調査、経営分析及び顧客評価分析結果報告会(09年1/21)  
【現状改善調査よりの今後の改善ポイント】

◎インターネットを活用したセールス販促の実施  
(21年3月まで実施予定)

◎接客の改善、お客様満足向上  
(21年3月までに研修会2回)

◎商品企画(特に食事企画の充実、販売促進の推進)

◎合理的運営体制への体制見直し

上記項目に関して次年度以降の具体的実行策を検討

### 取組③: 食農と工芸と環境の融合による長期滞在型集客・交流の振興

実施主体:(有)綾わくわくファーム、綾町観光協会、アイデアパートナーズ(株)

取組内容・結果:

- ①工房巡り・農業体験を中心としたエリア別周遊ルートの策定と周遊ガイドマップの制作及びガイドの養成/照葉樹林エリアの周遊ルート調査とルートマップの作成  
→町内の工房、農業体験実施農園などを含めた町歩きコース策定のワークショップを4回開催。ガイド候補者と綾町中心部と馬事公園周辺について、実際にフィールドワークを行い、その2エリアの周遊ルートの策定とガイドのポイント学習、ガイドマップの制作を行った。  
また、照葉樹林エリアについても、「てるはの森の会」のガイドをメンバーとして、ガイド技術のスキルアップを兼ねての周遊ルート策定のフィールドワークを実施。ガイドマップ、ルートマップは2月末完成予定。
- ②食農と工芸と環境の融合による長期滞在型集客・交流ツアーの実施  
(11月・2月・3月の3回で実施)  
→11/24～26に第1回目を実施。9組13名が参加し、綾工芸まつりの見学や農園や家庭菜園オーナーをインストラクターとした農作業、照葉樹林ウォーキング、わくわくファームにてのスローフード交流会などを体験。ツアーの内容について、「とても良かった」「良かった」との回答が90%を超える高い評価を得た。  
1月～3月は、民泊受け入れ調査やモニターツアー第2回・第3回を実施。すでに定住希望者9名を確保。うち1名は、11月のモニターツアー参加者である。

#### 【モニターツアー】



▲綾工芸まつり



▲農作業体験



▲照葉樹林ウォーキング

## ◆取組実施による成果・今後の展開◆

取組①～③が有機的に繋がり、地域住民の間では、“スローフード・スローライフ”をキーワードに、“工芸・工房”“有機農法”“照葉樹林”等の地域資源を生かした綾町の活性化を理解し、推進する気運が高まった。また、都市部住民へは、モニターツアー等の実施により、綾町への興味喚起、滞在中の楽しみ方の理解、地域住民(特にUターン)の農家・工芸家との交流が促進するといった成果を得ることができた。

今後は、今年度の成果をふまえ、各取組について、町内の実施エリアの拡大や人材のさらなる発掘・育成に努め、来訪者の<短期滞在→長期滞在→定住>という流れをシステム化していく。そのために、滞在交流型観光や定住事業の推進を主な業務とするワンストップ対応の組織構築が急務である。